

正課体育柔道受講生の柔道に対するイメージの研究

小俣 幸嗣, 中村 良三*, 藤堂 良明*, 佐藤伸一郎*,
高橋 幸治**, 青柳 領***

A study on the Image Factors toward Judo : in the case of students attending Judo classes on the regular Physical Education course.

Kouji KOMATA, Ryozo NAKAMURA,
Yoshiaki TODO, Shinichiro SATOH,
Kouji TAKAHASHI, Osamu AOYAGI

Abstract

The purposes of this study are 1) to clarify the factor structure of image factors toward judo in physical education, and 2) to investigate the relationship between the image factors and various conditions, such as gender, selecting order of subjects, faculty and Judo experience.

A questionnaire containing seventy-five items, which may evaluate the image toward judo, was given to the two-hundred sixty-one students at T University. The data was gathered from the response to the questionnaire and factor analysis was administered to it. As a result, eight factors were extracted and interpreted as follow :

- 1) Nature of Budo
- 2) Mental improving
- 3) Fear
- 4) Negative emotion
- 5) Physical improving
- 6) Equality
- 7) Manner improving
- 8) Utility

There were significant differences between genders in Nature of Budo, Mental improving, Fear, Equality, and Utility, between selecting orders in Mental improving and Physical improving, between faculties in all factors except Mnetal improving and Physical improving, and between Judo experiences in Mental improving, Fear and Physical improving.

*筑波大学体育科学系

**筑波大学大学院体育研究科

***福岡大学体育学部

1. 緒 言

柔道の授業を受講している学生に対しての意識調査¹⁾²⁾⁸⁾やイメージの研究⁴⁾⁶⁾は、現在まで数多くなされている。特に、中学生³⁾¹¹⁾や高校生⁵⁾⁷⁾¹³⁾を対象にした研究は多い。これら対象とされる生徒達は、数多くの種目の中から自由に柔道を選択したのではなく、格技としての枠の中での選択必修であったり、必修であったりする場合が多い。しかし、現在の大学体育の動向としては、多様性を持った教材を学生に提供することによって、興味を喚起させようとしている。こうして多くの種目選択の幅をもたせることにより、強制的ではなく、自らの価値観に基づいて、積極的に柔道の受講を希望してくる学生が多くなりつつある。男の種目とされていた柔道は、近年では女子学生の参加が当然となり、授業では経験者の多い男子学生と共習する形が取られている。

このような学生は大学正課体育での柔道の授業に何を期待しているのだろうか。われわれはどのようなカリキュラムを用意したら良いのであろうか。当然のことながら、このような学生の柔道への意識は、過去の柔道経験や現在置かれている環境によっても異なっているであろうことは容易に推測できる。

大学体育のカリキュラム編成にあたっては、上述した観点から、大学生のスポーツに対するニーズや意識を考慮に入れ、教育内容や教材の選択の幅を決定することが望まれる⁶⁾¹⁵⁾。

従って、本研究では大学の正課体育において、柔道を選択した学生を対象に男女差、選択形式、所属学類、過去の柔道経験等が柔道に対するイメージにどのように影響しているかを検討するのが目的である。

2. 研究方法

(1) 調査対象

調査の対象は、T大学における正課体育柔道受講学生男子139名、女子74名、及び、体育専攻学生で柔道を受講している者男子17名、女子31名の計261名である。

(2) 調査方法

柔道のイメージに関する調査は、まず調査対象者全員に自由記述形式での予備調査を行った。先行研究¹⁻¹⁷⁾の結果を参考にしながら、予備調査の結果を整理、分類して75項目の調査項目を作成した。各項目への回答はいずれも5段階評定で行った。質問項目は、資料1のとおりである。調査期間は、1991年4月～6月である。

(3) 統計処理

得られた資料から項目間の相関行列を求め、この相関行列に対して主因子解を適用し、固有値1.0以上である因子を抽出した。得られた因子負荷行列に対してNormal Varimax法による直交回転を施した。これらは、最も一般的に行われている因子分析の方法の1つである⁴⁾⁹⁾¹⁰⁾¹⁴⁾。

3 結果及び考察

(1) 因子構造の解釈

前述した方法により因子分析の結果、表1に示すように解釈可能な8因子を得た。

第1因子は、「難しい」、「動きや技が激しい」、「奥が深い」、「簡単にはうまくならない」、「技の数が多い」などの項目で有意な因子負荷量を示し、「武道性」因子と解釈した。

第2因子は、「ストレス解消になる」、「かっこいい」、「親しみやすい」、「相手の性格がわかる」などの項目で有意な因子負荷量を示し、「内面向上」因子と解釈した。

第3因子は、「痛い」、「投げられるのがいやだ」、「安全である」、「怖い」などの項目で

表1 質問項目と因子分析の結果

項 目	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	h ²
71 柔道は、難しい	0.60	-0.08	0.23	-0.05	0.07	0.01	-0.06	-0.01	0.43
70 柔道は、動きや技が激しい	0.57	0.04	0.06	-0.04	0.25	0.18	-0.05	0.67	0.88
6 柔道は、奥が深い	0.56	0.16	-0.02	0.02	0.02	0.03	0.19	0.17	0.41
57 柔道は、簡単には上手にならない	0.55	-0.07	0.01	-0.06	0.08	-0.07	-0.19	0.09	0.37
55 柔道は、真剣にやるものである	0.52	0.06	-0.06	-0.08	0.09	0.09	-0.02	0.08	0.31
47 柔道は技の数が多い	0.51	-0.01	0.11	-0.02	0.05	0.08	0.19	-0.01	0.32
8 柔道は、礼儀作法を重んじる	0.49	0.24	0.15	-0.07	0.05	0.18	0.30	-0.03	0.45
2 柔道は、伝統的なスポーツである	0.48	0.09	0.20	0.08	-0.24	0.15	0.18	-0.01	0.40
5 柔道は、全身運動である	0.43	0.09	0.01	-0.08	0.21	0.09	0.06	0.07	0.26
24 柔道は、力強く迫力がある	0.43	0.42	0.08	-0.05	0.18	0.10	-0.04	-0.18	0.45
51 柔道は、疲れる	0.43	0.02	0.13	0.19	0.25	-0.01	-0.21	0.09	0.35
16 柔道は、日本が世界に誇れるものである	0.42	0.16	0.08	-0.19	0.09	0.19	0.09	0.09	0.30
64 柔道では、頭を使う	0.40	0.15	-0.09	-0.11	0.07	-0.01	0.22	0.05	0.26
41 柔道は、1対1の勝負である	0.40	0.13	-0.02	-0.04	0.04	-0.02	0.03	-0.15	0.20
34 柔道の動きは、速い	0.37	0.23	0.06	-0.18	0.21	0.18	-0.06	0.07	0.31
9 柔道は、素手でもできる	0.37	0.09	-0.01	-0.05	-0.12	-0.07	0.19	-0.05	0.21
29 柔道は、屋内でやるので嫌だ	-0.34	-0.18	-0.06	0.30	-0.04	0.07	0.17	0.06	0.28
26 柔道は、ストレス解消になる	0.05	0.60	-0.18	0.05	0.03	-0.01	0.01	0.09	0.41
25 柔道は、カッコいい	0.28	0.55	-0.05	-0.20	0.01	0.08	0.11	-0.10	0.45
36 柔道は、親しみやすい	0.04	0.52	-0.28	-0.22	0.10	0.06	-0.05	0.13	0.43
73 柔道では、相手の性格がわかる	0.04	0.48	0.07	0.07	0.08	0.19	0.14	0.06	0.31
4 柔道は、集中力を高める	0.31	0.47	-0.01	-0.05	0.22	0.07	0.13	0.02	0.39
12 柔道のトップレベルの試合が見たい	0.30	0.46	-0.01	-0.11	0.01	0.26	-0.05	0.17	0.41
45 柔道は、人生を豊かにしてくれる	0.03	0.46	-0.21	-0.04	0.23	-0.06	0.22	0.17	0.39
72 柔道をする、自分に自信がもてるようになる	0.08	0.44	-0.01	-0.02	0.27	0.13	0.22	0.15	0.36
14 相手の心を読むことが出来る	-0.04	0.43	-0.03	-0.05	0.21	0.27	0.18	0.18	0.37
1 柔道は、精神を鍛える	0.31	0.43	0.08	0.01	0.15	-0.08	0.31	-0.01	0.41
11 柔道は、友人を作るのによい	0.02	0.43	0.07	-0.11	0.15	0.15	0.15	0.05	0.27
27 柔道は、護身術になる	0.25	0.41	-0.01	-0.12	-0.09	0.09	-0.04	0.33	0.37
17 柔道は、分かりやすい	-0.07	0.37	-0.34	-0.09	0.05	0.00	0.05	0.17	0.30
22 柔道は、他のスポーツとは違った楽しさがある	0.29	0.36	-0.10	-0.29	0.06	0.12	-0.04	0.14	0.35
7 柔道は、痛い	0.14	-0.06	0.69	0.06	0.02	0.01	-0.02	-0.03	0.50
10 柔道では、投げられるのがいやだ	0.09	-0.11	0.57	0.15	0.00	0.15	0.09	-0.12	0.41
60 柔道は、安全である	-0.04	0.18	-0.56	0.01	0.00	0.17	0.28	0.09	0.46
46 柔道は、怖い	-0.02	-0.13	0.52	0.19	0.09	-0.09	0.15	-0.09	0.37
3 柔道では、相手を痛めてしまうのではないかと心配である	0.07	0.11	0.49	0.08	-0.08	-0.14	-0.15	0.14	0.33
54 柔道の絞め技は、いやだ	0.27	0.01	0.39	0.29	-0.11	0.02	0.09	-0.13	0.35
56 柔道では、競い合うのがいやだ	-0.11	-0.12	0.37	0.22	-0.24	-0.06	0.20	-0.01	0.31
63 柔道は、臭い	0.09	0.02	0.15	0.64	0.03	0.03	-0.08	-0.01	0.45
21 柔道は、汚い	-0.14	-0.09	0.15	0.60	0.03	-0.16	-0.01	0.05	0.44
35 柔道着は、センスがない	-0.15	-0.08	0.06	0.56	-0.08	-0.04	-0.22	-0.08	0.41
33 柔道は、暗い	-0.35	-0.29	0.20	0.53	-0.01	-0.07	0.02	0.01	0.53
23 柔道をする、体型が崩れる	-0.08	-0.04	0.03	0.48	-0.02	0.04	0.01	-0.11	0.25
59 柔道は、女らしくない	-0.05	0.04	0.04	0.46	0.00	-0.01	-0.07	-0.25	0.28
38 柔道は、密着するのでいやだ	-0.15	0.03	0.25	0.39	-0.31	-0.21	0.13	-0.10	0.41
15 柔道では、持久力がつく	0.04	0.22	-0.04	0.03	0.61	-0.01	0.15	0.05	0.45
20 柔道は、体力を向上させる	0.19	0.27	-0.08	-0.06	0.59	0.01	0.05	0.11	0.48
37 柔道は、体を鍛える	0.31	0.14	0.00	-0.14	0.46	0.13	0.07	0.03	0.37
32 柔道は、自分を強くしてくれる	0.21	0.39	0.02	0.05	0.42	0.10	0.09	0.17	0.42
49 柔道は、忍耐力を高めてくれる	0.23	0.34	0.04	-0.02	0.42	0.07	0.37	0.10	0.50
50 柔道は、反射神経を高めてくれる	0.25	0.33	0.03	-0.01	0.38	0.08	0.28	-0.06	0.41
69 柔道は、小さい者でも大きい者に勝てる	0.20	0.22	-0.09	0.03	0.03	0.77	0.10	0.01	0.70
13 柔道は、どのような体格の人でもできる	0.20	0.15	-0.21	-0.10	0.08	0.55	0.01	0.22	0.47
48 柔道では、力の弱い者でも強い者に勝てる	0.15	0.24	-0.08	-0.03	0.13	0.54	0.26	-0.03	0.46
28 柔道は、男女平等である	0.12	0.14	0.13	-0.22	0.08	0.36	0.06	0.17	0.27
52 柔道は、規則正しい生活が身につく	-0.09	0.14	0.19	-0.08	0.11	0.27	0.48	0.07	0.39
58 柔道をする、姿勢がよくなる	0.14	0.18	0.01	-0.02	0.12	0.09	0.46	0.21	0.33
67 柔道は、美しい	0.08	0.15	-0.10	-0.10	0.01	0.05	0.41	0.21	0.26
62 柔道着を着ると気が引き締まる	0.12	0.33	-0.17	-0.07	0.13	0.22	0.38	-0.11	0.38
31 柔道は、他のコンタクトスポーツに役立つ	-0.03	0.21	0.05	-0.09	0.17	0.09	0.09	0.59	0.45
18 柔道の受け身は日常で自分の体を守ってくれる	0.21	0.22	-0.11	-0.10	0.14	0.05	-0.03	0.50	0.39
74 柔道は、他のスポーツにも応用できる	-0.11	0.23	-0.09	-0.04	0.00	0.24	0.11	0.40	0.30
19 柔道は、合理的である	0.09	0.11	-0.26	-0.24	0.05	-0.01	0.23	0.35	0.32
2乗和	5.117	4.643	2.801	2.825	2.397	2.185	2.140	2.179	
寄与率 (%)	8.123	7.369	4.446	4.485	3.805	3.469	3.397	3.458	38.55

有意な因子負荷量を示し、「恐怖性」因子と解釈した。

第4因子は、「臭い」、「汚い」、「柔道衣はセンスがない」、「暗い」などの項目で有意な因子負荷量を示し、「否定感情」因子と解釈した。

第5因子は、「持久力がつく」、「体力を向上させる」、「身体を鍛える」、「忍耐力を高める」などの項目で有意な因子負荷量を示し、「身体向上」因子と解釈した。

第6因子は、「小さい者でも大きいものに勝てる」、「どのような性格の人でもできる」、「力の弱い者でも強い者に勝てる」などの項目で有意な因子負荷量を示し、「平等性」因子と解釈した。

第7因子は、「規則正しい生活が身につく」、「姿勢がよくなる」、「美しい」などの項目で有意な因子負荷量を示し、「態度向上」因子と解釈した。

第8因子は、「コンタクトスポーツに役立つ」、「受け身は日常で自分の身体を守ってくれる」、「他のスポーツにも応用できる」などの項目で優位な因子負荷量を示し、「効用性」因子と解釈した。

つまり、以上の8因子によって柔道のイ

メージが判断されていると考えられる。類似した項目を用いた先行研究で抽出・解釈された因子名と本研究で抽出・解釈された因子名とを比較すると、船越ら²⁾の「武道性」因子と「否定感情」因子とは明確に対応しており、飯田ら⁴⁾中島ら⁹⁾¹⁰⁾の「身体性」因子は、本研究の「身体向上」因子とほぼ同様の因子であろう。しかしながら、いずれの先行研究間でも解釈した観点が異なっていることから、得られた知見を組織的に比較検討することは困難である。

(2) 男女別因子得点の差異

まず、表2は抽出された8因子について、男女別に集計した結果である。t検定の結果、有意な差がみられたのは、「武道性」因子、「内面向上」因子、「恐怖性」因子、「平等性」因子、「効用性」因子であった。それらの中で男子の平均値が女子よりも大であったのは、「効用性」因子のみであった。女子は、未経験者が多いためか、「小さいものでも大きいものに勝てる」、「奥が深い」、「激しい」と行った好意的な側面を持ちながら、「痛い」、「怖い」など好意的な側面のみならず非好意的な捉え方もしているなど多様な観点から柔道を捉え

表2 男女別各因子得点

	男子 (n=156)		女子 (n=105)		t検定	
武道性因子	68.03	(6.83)	70.31	(6.42)	t(259)=2.71	**
内面向上性因子	47.19	(7.31)	49.46	(6.72)	t(259)=2.54	*
恐怖性因子	20.65	(4.02)	22.41	(3.75)	t(259)=3.55	**
否定感情因子	22.80	(4.54)	22.35	(5.04)	t(259)=0.75	
身体向上因子	22.66	(3.79)	22.11	(3.19)	t(259)=1.22	
平等性因子	13.63	(3.24)	14.64	(2.95)	t(259)=2.56	*
態度向上因子	12.44	(2.52)	12.79	(2.60)	t(259)=1.10	
効用性因子	13.99	(2.39)	13.14	(2.41)	t(259)=2.79	**

注) 数値は平均 (標準偏差) を表す。 * : p<0.05 ** : p<0.01

ていた。反面、男子は「受け身の他のスポーツへの応用」など実利的な捉え方をしている。これは男子の方が経験者が多く、そのイメージがより具体的なことが原因と考えられる。

(3) 希望別因子得点の差異

被験者を、「柔道の授業を第1希望で受講している者」と「そうでない者」に分けて検討した。表3は、抽出された8因子について、希望別に集計した結果である。t検定の結果、有意な差がみられたのは、「内面向上」因子と「身体向上」因子であった。これらの因子

に共通している点は、いずれも柔道に固有なものではなく、広くスポーツ全般に当てはまることである。つまり、柔道を第1希望で選択した者は、多くのスポーツに共通する好意的なイメージに関して、より強く感じていることになる。

(4) 専攻別因子得点の差異

被験者を専攻別に体育系、理系、文系の3群に分けて検討した。表4は、抽出された8因子について、専攻別に集計した結果である。F検定の結果、有意な差がみられたのは、「武

表3 希望別各因子得点

	第一希望 (n=106)	それ以外 (n=154)	t検定
武道性因子	69.92 (6.88)	68.29 (6.62)	t(258)=1.91
内面向上性因子	50.05 (6.69)	46.75 (7.20)	t(258)=3.74 **
恐怖性因子	20.77 (4.26)	21.76 (3.79)	t(258)=1.96
否定感情因子	22.15 (4.62)	22.97 (4.82)	t(258)=1.38
身体向上因子	23.09 (3.43)	22.01 (3.60)	t(258)=2.44 *
平等性因子	14.22 (3.28)	13.95 (3.05)	t(258)=0.68
態度向上因子	12.81 (2.52)	12.42 (2.58)	t(258)=1.23
効用性因子	13.91 (2.52)	13.47 (2.36)	t(258)=1.41

注) 数値は平均(標準偏差)を表す。 * : p<0.05 ** : p<0.01

表4 学類別各因子得点

	体育系 (n=48)	理系 (n=114)	文系 (n=78)	F検定
武道性因子	72.06 (4.72) a	67.82 (6.94) b	69.39 (7.24) b	6.92 **
内面向上性因子	48.96 (5.05)	47.50 (7.33)	49.45 (6.98)	2.08
恐怖性因子	24.08 (3.84) a	20.33 (3.75) b	21.18 (3.91) b	16.37 **
否定感情因子	23.90 (4.32) a	21.79 (4.63) b	22.42 (4.91) ab	3.45 *
身体向上因子	22.06 (3.27)	22.31 (3.91)	23.39 (2.95)	2.92
平等性因子	15.54 (2.29) a	13.57 (3.44) b	14.00 (3.04) b	6.84 **
態度向上因子	13.00 (2.55) a	12.07 (2.35) b	13.15 (2.53) a	5.31 **
効用性因子	13.21 (2.38) b	13.46 (2.45) b	14.19 (2.39) a	3.11 *

注) 数値は平均(標準偏差)を表す。 * : p<0.05 ** : p<0.01

異なるアルファベットを持つ平均値間に有意差があり、かつa>b

道性」因子、「恐怖性」因子、「否定感情」因子、「平等性」因子、「態度向上」因子、「効用性」因子であった。さらに、有意差がみられた因子に対してLSD法を用いた多重比較を行った。表4の中でアルファベットは「異なるアルファベットをもつ平均値間に有意差がある」ことを示している。例えば、aはbより有意に大であるが、a bはaやbとは有意な大小関係がないことを示している。つまり、体育系は、「武道性」因子、「恐怖性」因子、「平等性」因子の各因子において、理系、文系より有意に大であった。また、文系が理系、体育系より大であったのは、「効用性」因子であった。

つまり、体育系は必ずしも自分の専門でなくとも、それなりに柔道を明確に把握している。従って、柔道の持つ武道としての側面に

ついてより深いイメージを感じているのであろう。反面、文系学生に関しては、必ずしも「柔道をする」ということが第1の目的ではなく、「受身は日常で自分の体を守ってくれる」等、柔道をする事により生じる効果を期待したり、或いは「スポーツに役立つ」等副次的な目的意識があることが伺える。

(5) 過去の経験別因子得点の差異

表5は、被験者の過去の柔道経験をもとに、課外活動・授業・経験無しの3グループに分け、集計した結果である。課外活動での経験者は、31名、授業で習った経験のある者は97名、全く経験のない者は、113名であった。

表6は、抽出された8因子について、経験別に集計した結果である。F検定をした結果、「内面向上」因子、「恐怖性」因子、「身体向

表5 男女別柔道経験

	有(人)		無(人)
	授業 (%)	課外 (%)	
男	93(59.6%)	28(17.9%)	35(22.4%)
女	4(3.8%)	3(2.9%)	98(93.3%)
計	97	31	133

表6 経験別各因子得点

	課外 (n=31)		授業 (n=97)		なし (n=133)		F検定
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	
武道性因子	70.81	(5.49)	67.89	(7.27)	69.28	(6.53)	2.57
内面向上性因子	51.29	(6.65) a	46.22	(7.58) b	48.73	(6.60) a	7.29 **
恐怖性因子	18.87	(4.06) c	20.99	(3.89) b	22.21	(3.81) a	10.07 **
否定感情因子	22.48	(4.31)	22.28	(4.74)	22.90	(4.86)	0.50
身体向上因子	24.58	(3.38) a	22.28	(3.78) b	22.06	(3.28) b	6.74 **
平等性因子	13.29	(3.36)	13.88	(3.33)	14.32	(2.97)	1.54
態度向上因子	12.71	(1.87)	12.21	(2.67)	12.82	(2.59)	1.68
効用性因子	14.39	(2.22)	13.78	(2.43)	13.38	(2.44)	2.45

注) 数値は平均(標準偏差)を表す。 * : p<0.05 ** : p<0.01

異なるアルファベットを持つ平均値間に有意差があり、かつa>b>c

上」因子に有意差がみられた。

「内面向上」因子は、課外活動として経験した者と全く経験のない者が、授業で経験した者よりも大であった。「恐怖性」因子は、課外活動或いは授業で経験ある者より全く経験のない者が大であり、課外活動で経験ある者より授業で経験ある者が大であった。つまり、恐怖感に関しては経験を積むことにより、その不安が徐々に除かれていくとみるべきであろう。また、「身体向上」因子では、課外活動経験者が授業のみの経験者や全く経験無しの方よりも有意に高い因子得点を得る傾向がみられた。これは、専門的に時間をかけて取り組んだ結果、身体的側面についての自覚が出来たものと考えられる。

(6) 男女・学類別因子得点の差異

男女及び所属学類をもとに、6グループに分け、集計した。表7は、抽出された8因子について、男女及び学類別に集計した結果である。F検定をした結果、「武道性」因子、「恐怖性」因子、「平等性」因子、「態度向上」因子、「効用性」因子の各因子に有意差がみられた。

さらに、LSD法を用いた多重比較を行った結果、「武道性」因子では、体育系女子が文系・理系男子、理系女子よりも因子得点が高く、文系女子は理系女子よりも因子得点が高かった。「恐怖性」因子では、体育系女子が理系・文系の男子・女子よりも高く、体育系男子は理系の男子・女子、文系の女子より高く、文系男子は、理系男子より高い因子得点を示した。

「平等性」因子では、体育系女子が理系及び文系の男子、理系及び文系の女子よりも高い因子得点を示した。この因子に高い因子負荷量を示す項目は、「小さい者でも大きい者に勝てる」など柔道の理想とされる理念が含まれており、柔道未経験の女子がこの様なイメージを持つということは柔道への期待の表

れでないかとも考えられる。「態度向上」因子では、文系女子が理系の男女よりも高く、体育系男子は理系男子よりも高い因子得点を示した。これは、スポーツを経験している体育系学生の態度形成に対する肯定的なイメージが反映されていると考えられる。「効用性」因子では、男子3グループと文系女子が体育系女子より高い因子得点を示した。

(7) 男女・経験別因子得点の差異

男女及び柔道経験をもとに、6グループに分け、集計した。表8は、抽出された8因子について、男女及び柔道経験別に集計した結果である。F検定の結果、「武道性」因子、「内面向上」因子、「恐怖性」因子、「身体向上」因子、「平等性」因子、「効用性」因子の各因子に有意差がみられた。

さらに、LSD法を用いた多重比較を行った結果、「武道性」因子では、女子は男子の授業経験のある者・未経験の者よりも大であった。同じく経験のない男女を比べても女子の方がイメージが高いことが考えられる。

「内面向上」因子は、女子の方が授業経験のある男子よりも大であり、課外活動経験のある男子は未経験の男子より高い因子得点を示した。「恐怖性」因子では、男子授業経験者・未経験者は男子課外活動経験者より高く、女子は男子授業経験者・男子課外活動経験者よりも高い因子得点を示した。つまり、男子内の比較では、授業で行う程度では未経験者との間に恐怖性因子に関して有意な差がないということになる。同時に男女間でも未経験者同士の間には有意な差がないといえる。

「身体向上」因子について、男子課外活動経験者は女子、授業経験のある男子、未経験の男子よりも因子得点は大であった。これは身体能力の向上を自覚するには、課外活動で積極的に活動しなければならないということを示していると考えられる。「平等性」因子では、女子は男子課外活動経験者よりも高い

表7 男女・学類別各因子得点

	男子		女子		F検定		
	体育系 (n=17)	文系 (n=26)	体育系 (n=31)	文系 (n=52)			
武道性因子	70.76(4.70) abc	68.00(8.24) bc	72.77(4.66) a	67.89(5.92) c	70.13(7.04) ab	3.38 **	
内面上性因子	48.43(5.10)	46.36(8.35)	47.19(7.14)	48.30(6.47)	50.58(6.68)	2.21	
恐怖性因子	23.06(4.45) ab	20.28(3.94) d	22.12(3.43) bc	20.37(3.65) d	20.71(4.08) c	7.44 **	
否定感情因子	23.71(3.67)	22.64(4.86)	23.04(4.85)	21.19(4.39)	22.12(4.96)	2.06	
身体向上因子	22.88(3.10)	22.45(4.57)	23.62(2.73)	22.21(3.43)	23.27(3.07)	1.51	
平等性因子	15.12(2.47) ab	13.55(3.65) b	13.85(3.41) b	15.77(2.19) a	13.58(3.32) b	14.08(2.86) b	2.83 *
態度向上因子	13.47(2.58) ab	11.89(2.76) c	13.04(2.27) abc	12.74(2.54) abc	12.19(2.02) bc	13.21(2.67) a	2.40 *
効用性因子	14.23(2.17) ac	13.89(2.49) ac	14.19(2.15) ac	12.65(2.33) b	13.16(2.39) bc	14.19(2.51) a	2.75 *

注) 数値は平均(標準偏差)を表す。 * : p<0.05 ** : p<0.01

異なるアルファベットを持つ平均値間に有意差があり、かつa>b>c>d

表8 男女・経験別各因子得点

	男子		女子		F検定		
	課外 (n=28)	授業 (n=93)	なし (n=35)	授業 (n=4)		なし (n=98)	
武道性因子	70.21(5.31) ab	67.73(7.38) b	67.06(6.15) b	76.33(4.51) a	71.50(1.73) ab	70.07(6.51) a	2.82 *
内面上性因子	50.79(6.79) a	46.06(7.61) b	47.29(6.03) c	56.00(2.00) a	49.75(6.85) abc	49.24(6.75) ac	3.86 **
恐怖性因子	18.50(3.69) c	20.92(3.94) b	21.66(3.98) ab	22.33(6.66) abc	22.50(2.38) abc	22.41(3.74) a	4.91 **
否定感情因子	22.71(4.21)	22.43(4.69)	23.86(4.35)	20.33(5.69)	18.75(5.12)	22.56(5.01)	1.19
身体向上因子	24.39(3.38) a	22.26(3.82) c	22.34(3.70) bc	26.33(3.51) ab	22.75(2.87) abc	21.96(3.14) c	2.92 *
平等性因子	12.82(3.07) c	13.82(3.34) bc	13.77(3.11) bc	17.67(3.21) a	15.25(3.20) abc	14.52(2.91) ab	2.40 *
態度向上因子	12.64(1.83)	12.19(2.70)	12.91(2.45)	13.33(2.52)	12.50(1.91)	12.79(2.64)	0.73
効用性因子	14.64(2.06) a	13.71(2.43) ab	14.20(2.46) a	12.00(2.65) ab	15.50(2.08) a	13.08(2.38) b	3.27 **

注) 数値は平均(標準偏差)を表す。 * : p<0.05 ** : p<0.01

異なるアルファベットを持つ平均値間に有意差があり、かつa>b>c>d

因子得点を示した。未経験の女子の方が「誰でもやれる」、「小さい者でも大きな者に勝てる」というイメージが高かった。これは女子とは逆に、専門的に取り組んだ男子が、これら柔道の理想を追求するためには、相当の技術を必要とすることを実感しているためであろうと考えられる。「効用性」因子では、男子課外活動経験者、未経験の男子は女子よりも因子得点が高く、その効果を高く評価しているといえる。

4. まとめ

T大学における正課体育柔道受講生及び、体育専攻学生の柔道受講者261名を対象に75項目からなる柔道のイメージについての調査を行なった。さらに、因子分析を行い、次のような結果を得た。

- (1) 因子分析の結果、「武道性」、「内面向上」、「恐怖性」、「否定感情」、「身体向上」、「平等性」、「態度向上」、「効用性」の8因子が抽出された。
- (2) 男女間で有意な差がみられたのは、「武道性」、「内面向上」、「恐怖性」、「平等性」、「効用性」因子であった。
- (3) 希望順位間で有意な差がみられたのは、「内面向上」と「身体向上」因子であった。
- (4) 専攻間で有意な差がみられたのは、「武道性」、「恐怖性」、「否定感情」、「平等性」、「態度向上」、「効用性」因子であった。
- (5) 過去の経験間で有意な差がみられたのは、「内面向上」、「恐怖性」、「身体向上」であった。
- (6) 男女・学類別間で有意な差がみられたのは、「武道性」、「恐怖性」、「平等性」、「態度向上」、「効用性」であった。
- (7) 男女・経験別間で有意な差がみられたのは、「武道性」、「内面向上」、「恐怖性」、「身体向上」、「平等性」、「効用性」であった。以上のことから、男女共習で行われる大学

の授業では、男女間、学類間、経験の有無等によって、柔道の対するイメージに差があるため、受講者の背景を踏まえた授業展開が必要であることが示唆された。

引用・参考文献

- 1) 船越正康・小野沢弘史・貝瀬輝夫・斉藤仁・三上寛司・松本裕之「柔道に関する意識の因子分析的研究(5)－日本代表選手の意識水準と競技行動事例－」武道学研究, 24-2: 65-66, 1991.
- 2) 船越正康・小野沢弘史・春日俊・三上寛司「柔道に関する意識の因子分析的研究(4)－全日本男子強化選手を中心に－」武道学研究, 23-2: 21-22, 1990.
- 3) 船越正康・高橋邦郎・村松常司・藤猪省太・菅波盛雄・松本祐之「柔道に関する意識の因子分析的研究(1)－質問票の検討と中学男子への適用－」武道学研究, 22-2: 191-192, 1989.
- 4) 飯田穎男・遠藤純男・菅波盛男・青柳領・田中秀幸・武内政幸・吉岡剛「柔道選手に対する image の因子分析的研究」武道学研究, 16-2: 8-17, 1984.
- 5) 春日俊・小野沢弘史・平野嘉彦・藤猪省太・船越正康・中川万幸「柔道に関する意識の因子分析的研究(2)－中・高等学校全国大会出場者の意識分析－」武道学研究, 22-2: 193-194, 1989.
- 6) 河崎武夫・高木正皓・白銀茂夫・金芳保之「柔道のイメージに関する研究 第2報」武道学研究, 8-2: 80-81, 1975.
- 7) 河崎武夫・白銀茂夫・金芳保之・山根正之・斉藤正俊「柔道のイメージに関する研究」武道学研究, 7-1: 12-13, 1974.
- 8) 中村一成・木村昌彦・井浦吉彦・辻原謙太郎・小沢雄二・吉鷹幸春「正課体育柔道における学生の意識に関する研究」武道学研究, 24-2: 113-114, 1991.

- 9) 中島猷・飯田穎男・武内政幸・松浦義行
「4ヶ国における柔道選手に対するイメージの研究」武道学研究, 23-2: 93-94, 1990.
- 10) 中島猷・飯田穎男・武内政幸・小森富士登・松浦義行「西ドイツにおける柔道選手に対するイメージの因子分析的研究」武道学研究, 22-2: 183-184, 1989.
- 11) 尾形敬史「柔道に対する意識の研究(第1報) -中学生を対象にして-」武道学研究, 11-2: 32-34, 1978.
- 12) 篠原芳雄・白銀茂夫・金芳保之・河崎武夫・高木正皓「武道の実態と意識に関する調査-柔道の現代化と指導上の問題点について-」武道学研究, 8-2: 67-68, 1975.
- 13) 高見沢隆・竹内善徳・小野沢弘史・猪熊真・船越正康・国賀一成・内田仁志「柔道に関する意識の因子分析的研究(3) -高校生男女の意識構造比較-」武道学研究, 22-2: 195-196, 1989.
- 14) 武内政幸・井野川正信・中島猷・下川哲徳・武内外夫「オーストラリアにおける柔道選手に対するイメージの因子分析的研究」武道学研究, 22-2: 183-184, 1989.
- 15) 田中鎮雄「高校格技指導者の意識構造-指導法からみた学校格技の価値志向-」武道学研究, 14-3: 9-16, 1982.
- 16) 山岸明郎・田中鎮雄・松下三郎・田辺英夫・久保木優・大沢正美「大学運動部員の意識構造-柔道・剣道・空手道各部員の場合-」武道学研究, 13-2: 55-56, 1981.
- 17) 山崎俊輔・猪熊真・松井勲・岡田修一・藪根敏和・矢野勝・出口達也「英国における柔道のイメージの特性について」武道学研究, 23-2: 19-20, 1990.

1…全く思わない 2…思わない 3…どちらでもない、
4…そう思う 5…非常にそう思う

31、柔道は、他のコンタクトスポーツに役立つ。	1-2-3-4-5
32、柔道は、自分を強くしてくれる。	1-2-3-4-5
33、柔道は、暗い。	1-2-3-4-5
34、柔道の動きは、速い。	1-2-3-4-5
35、柔道着は、センスがない。	1-2-3-4-5
36、柔道は、親しみやすい。	1-2-3-4-5
37、柔道は、体を鍛える。	1-2-3-4-5
38、柔道は、密着するのでいやだ。	1-2-3-4-5
39、柔道では、ケガやキズが付きものである。	1-2-3-4-5
40、柔道では、思いやりの心が大切だ。	1-2-3-4-5
41、柔道は、1対1の勝負である。	1-2-3-4-5
42、柔道は、夏暑いし冬寒い。	1-2-3-4-5
43、柔道は、上達したのがよくわかる。	1-2-3-4-5
44、柔道は、髪の毛が乱れる。	1-2-3-4-5
45、柔道は、人生を豊かにしてくれる。	1-2-3-4-5
46、柔道は、怖い。	1-2-3-4-5
47、柔道は、技の数が多い。	1-2-3-4-5
48、柔道は、力の弱い者でも強い者に勝てる。	1-2-3-4-5
49、柔道は、忍耐力を高めてくれる。	1-2-3-4-5
50、柔道は、反射神経を高めてくれる。	1-2-3-4-5
51、柔道は、疲れる。	1-2-3-4-5
52、柔道は、規則正しい生活が身につく。	1-2-3-4-5
53、柔道は、国際的である。	1-2-3-4-5
54、柔道の絞め技は、いやだ。	1-2-3-4-5
55、柔道は、真剣にやるものである。	1-2-3-4-5
56、柔道では、競い合うのでいやだ。	1-2-3-4-5
57、柔道は、簡単には上手にならない。	1-2-3-4-5
58、柔道をするると、姿勢がよくなる。	1-2-3-4-5
59、柔道は、女らしくない。	1-2-3-4-5
60、柔道は、安全である。	1-2-3-4-5
61、柔道は、上達しやすい。	1-2-3-4-5
62、柔道着を着ると気が引き締まる。	1-2-3-4-5
63、柔道は、臭い。	1-2-3-4-5
64、柔道では、頭を使う。	1-2-3-4-5
65、柔道で投げられるのは、悔しい。	1-2-3-4-5
66、柔道では、体格の差を感じる。	1-2-3-4-5
67、柔道は、美しい。	1-2-3-4-5
68、柔道では、異性と練習するのがいやだ。	1-2-3-4-5
69、柔道は、小さい者でも大きい者に勝てる。	1-2-3-4-5
70、柔道は、動きや技が激しい。	1-2-3-4-5
71、柔道は、難しい。	1-2-3-4-5
72、柔道をするると、自分に自信が持てるようになる。	1-2-3-4-5
73、柔道では、相手の性格が分かる。	1-2-3-4-5
74、柔道は、他のスポーツにも応用できる。	1-2-3-4-5
75、柔道は、柔らかい。	1-2-3-4-5